

Identification of the interaction patterns
between adult to adult living liver transplant
recipients and donors during the preoperative
hospitalization period and associated factors

金岡, 麻希

<https://hdl.handle.net/2324/1500542>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（看護学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏名	金岡 麻希
論文名	Identification of the interaction patterns between adult to adult living liver transplant recipients and donors during the preoperative hospitalization period and associated factors (成人間生体肝移植のレシピエントとドナーの影響要因と術前の交流パターンの検討)
論文調査委員	主査 九州大学 教授 藤田 君支 副査 九州大学 教授 加来 恒壽 副査 九州大学 教授 谷口 初美

論文審査の結果の要旨

本研究の目的は、生体肝移植の術前入院期間におけるレシピエントとドナーの身体的および心理社会的状況と両者の交流パターンを明らかにすることである。研究デザインは量的・質的データを用いた探索型記述的研究デザインが採用され、対象者は大学病院で成人間生体肝移植手術を受けたレシピエントとドナーの9組である。調査の結果、レシピエントの肝硬変の重症度は、レシピエント自身の手術への意欲に影響を与え、さらに、レシピエントとドナーの交流パターンにも影響を及ぼしていた。また、交流パターンは、【同志・絆型】【自己意思補完型】【回避型】の三つの特徴的パターンに分類された。本研究により術前の交流パターンが示されたことで、レシピエントとドナーへのより積極的な介入や移植看護の質の向上が期待できる。本研究は生体肝移植というレシピエントとドナーが同じ目的で同時に手術を受けるという特殊な状況下における看護介入の方向性を示唆したもので、意義ある結果と考えられる。

予備調査において、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。

よって本論文は予備調査委員合議の上、博士（看護学）の学位に値する論文として価値あるものと認める。